

●何に使えるのか

◆応用製品・用途

クリスタルアート、案内表示システム、認証鍵システム など。

◆従来技術に対するメリット

複数の投影軸を持った立体に対して、軸ごとに異なった投影像を表出出来る。

また、投影像の数は任意に設定が可能。

●誰が使うのか

◆関連業種

電気機器、情報通信機器メーカー、電気部品メーカー、ディスプレイメーカー

◆日本標準産業分類中分類

電気機械器具製造業(29)、情報通信機械器具製造業(30)、電子部品・デバイス・電子回路製造業(28)

◆研究背景と研究の狙い

単一の3次元ボリュームに複数の投影パターンを記録させる技術であり、方向によって観察される画像を変えることが可能である。直接的にはレーザー加工による3次元クリスタルアートに適用でき、記録媒体を工夫することでカラー化も可能である。

◆研究概要

- 複数の投影軸を持った立体に対して、軸ごとに異なった投影像を表出する技術。
- 投影像の数は任意に設定が可能。
- 逆に、投影軸以外の方向からは像を見ることはできない。

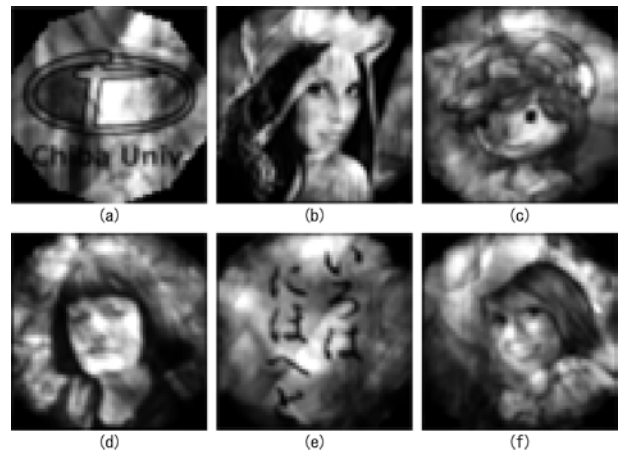
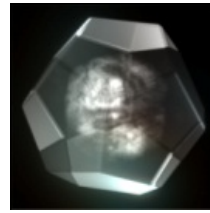
●関連する知的財産権

特願2010-232028「立体画像を作製する方法」

●ステーションからの企業様へのメッセージ

直接的にはレーザー加工による3次元クリスタルアートに適用でき、記録媒体を工夫することでカラー化も可能であり、クリスタルアート、案内表示システム、認証鍵システム等への応用が見込め、是非とも企業と協力して、実用化を目指したく、宜しくお願いします。

◆参考図



◆参考図の説明

●12面体のクリスタル(左図)の6軸にそれぞれ異なった投影像を表示させるように立体構造を決定し、各投影軸で再生シミュレーションを行った結果、3軸を持つ6面体では、試作にも成功している。



◇氏名 伊藤 智義

◇役職 教授

◇所属 大学院 工学研究科 人工システム科学専攻

◇提供できる技術シーズ

①複数の2次元情報を保持する立体作製技術

②

③

◇経歴

1989 東京大学教養学部基礎科学科第一

1991 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 学術修士,

1992 同専攻、博士課程退学,

1994 博士(学術)

◇職歴

群馬大学工学部助手, 同助教授,

千葉大学工学部助教授, 同教授, 2007現職